



梶野 本山 修一 24
借りやすい融資制度実現を

問 百年に一度の経済危機のなか、中小業者へ借りやすい融資制度実現へどのように取り組むのか。

も市内中小企業を対象に緊急経営実態調査で、利率の低い融資、据え置き期間の長い融資、申し込みから実行が早い融資等を求める経営者の声を聞いている。今後早急に、利用しやすく実績が上がるような融資制度を金融機関や埼玉県信用保証協会とすすめたい。

答 産業観光部長 平成二十年度に、大田区や世田谷区で区が利子補給を行う融資制度を新たに設けている他、蔵市は二十一年度の当該年度融資分限り、市が利子を一年間補助して無利子にする新規事業を始める。本市で

問 市民のくらしを守るため川越駅東口と周辺対策

問 不況対策の施策を早急に市民に発表すべきだ。市民に不況に敗けずがんばろうのメッセージを。

経済的に今の不況の中で困っている市民の方々に対して、こういう経済対策、雇用対策を打ち出した。市としてはこのような対策を考えているというようなことを決め、それを発表し、実行することによって励ましの意味になると考えている。



梶野 佐藤 恵士 25
経済危機と市の対応

問 景気悪化と行財政運営川越市協働指針

また、励ましの意味で市民に対してメッセージ

また、励ましの意味で市民に対してメッセージ

また、励ましの意味で市民に対してメッセージ

また、励ましの意味で市民に対してメッセージ

また、励ましの意味で市民に対してメッセージ

特集

川合善明新市長の市政の方針を受けて

啓政会

- 久保 啓一
- 荻窪 一郎
- 稲浦 敏雄
- 吉田 光雄
- 山口 智也
- 松井 釜太郎
- 山口 肇
- 新井 喜一
- 大河内 衍
- 石川 良三郎



をお聞きするとともに、継続性を考慮した事業の推進、公正で公平な市政運営のための市民対話の重要性、生活を重視した施策の推進などについて質しました。

多くの政党などから支持を受けている市長は、新たな市政運営について多面に渡り苦勞するのではないかとの問に対し、市長から「一部から強い支持を得るより、広く均等に支持をいただいたほうが公平な立場でいられると思う。いずれにしても、公正・公平な立場で市政運営を貫く所存であります。」との答弁があります。今後の政治姿勢をあらためて確認しました。

行政の継続性について

また、市民の立場に立った公正・公平な市政を運営するためには、市民の声を聞くことが重要であると思うが、具体的な取り組みはあるかとの問

十六年間の舟橋市政の評価と、継続すべき事業の今後の考え方について市長は、「環境対策の推進や、観光都市として川越の名を広めたことなどの功績は大きい。一方で都市基盤整備など、遅れが見られる分野については今後積極的に取り組んでいきたい。事業の継続や見直しは市民の利益になるかどうかで判断したい。」と答弁されました。

これに対し議員は、行政は継続性が重要であり、特にこれまで市民との協議を経て進めてきた事業等は、こうした経過も十分考慮し、市民に信頼される行政運営を進めるべ

平成二十一年第一回定例会において、川合善明新市長から市政方針が示されました。これに対して、啓政会からは山口智也議員が質疑に立ちました。そして新市長の考え

これに対し議員は、行政は継続性が重要であり、特にこれまで市民との協議を経て進めてきた事業等は、こうした経過も十分考慮し、市民に信頼される行政運営を進めるべ

これに対し議員は、行政は継続性が重要であり、特にこれまで市民との協議を経て進めてきた事業等は、こうした経過も十分考慮し、市民に信頼される行政運営を進めるべ

生活重視の施策推進を

この問題について川合善明市長は医師不足解消に向けた新たな医師育成

制度などの導入や、不況で解雇されたパート、非正規雇用者の児童への保育園入所対策や、生活を重視した施策の重要性について意見を述べられました。また、医師不足解消に向けては、「今後、

県の取り組みなどを参考に関係機関と協議していきたい。」さらに待機児童問題については、「保

育所定員の増大や家庭保育室への助成、幼稚園の預かり保育を充実させるなど、待機児童の減少に努めたい。」との回答を得ました。

また、議員はその他にも今後の観光問題・市街地における慢性的な交通渋滞の解消、生活に直結した重要な課題等、今後の市政運営に向けて川合善明市長に質しました。



啓政会は、これまで常に市民の皆様の声を市政に反映させるよう活動してまいりました。

今後も市民の皆様の声を市政に届け、川越市政の発展と地域の活性化に向けて努力してまいります。

公明党議員団

清水京子

桐野忠

若狭みどり

大泉一夫

近藤芳宏

小ノ澤哲也

石川隆二

世界を取り巻く金融危機、その影響を日本そして川越市も大きく受けているこの時に、先般の市長選挙において多くの市民の負託を得て誕生した川合市長には、自らの

「市長の給与と退職金を見直し、二十%の削減に取り組み」との改革の姿勢、また川合市長の「市民一人ひとりが川越に住むことに誇りを持ち、終

のすみかとして川越を選んで良かったと思えるまちにしていきたい」との思い、そしてその為にも様々な課題に対し「正面から向き合い、勇気を持つて決断して行く」との信念に対し議員団として期待と共に評価をしています。

今回は市長が市政方針の中で述べられた公約に掲げていた「五つのかわごえづくり」に対する議員団の見解を中心に述べさせて頂きます。

一つ目の「まちづくり」では中心市街地における交通渋滞緩和の為に交差点改良を含める施策に期待をしています。

二つ目の「ひとづくり」においては、公明党は「チャイルド・ファースト」を掲げ、少子化対策を打ち出しておりますが、市長の「乳幼児健診の充実や保育園の待機児童の減少」への施策には期待をしております、児童・生徒の命を守る視点での「小中学校の耐震化を最優先課題として実施する」との考えにも議員団として評価をいたします。

三つ目の「くらしづくり」の点では、「斎場の建設」への決意に対し信念を貫いて頂きたいと思っております。

四つ目の「しくみづくり」については、より一層の透明性の高い契約制度の確立と共に、限りある財源を選択と集中、そして無駄を無くしての行財政運営を行って頂きたいと思っております。

五つ目の「げんきづくり」では、公明党議員団が以前から要望して来た「子ども医療費の無料化を小学校三年生まで拡充していきたい」との川合市長の前向きな姿勢を大いに評価いたします。



今後の市政運営に関しては、行財政改革を進めるため、また高齢者福祉・障害者福祉を守り、教育・文化・スポーツ・環境・観光など、様々な点を川合市長と、是非々々で議論していきたいと思っております。

私たちは川合新市長の市政方針を評価し今後にも期待をします。特に厳しい経済と雇用の現状を考えますと、川越市における行財政改革を真剣に取り組む姿勢を応援します。今後の人口減少社会に向かって効率的行政システムを創るにはラストチャンスかもしれません。川合市長は市立大学構想を撤回し市立川越高校における中高一貫校の設置推進を打ち出しました。また保育園の待機児童数の減少に取り組むなど今後の川越市を担う「人づくり」を重点項目に挙げています。厳しい財政状況の中で毎年の敬老週間に配られる健康長寿奨励金は今年度が二億四千万円ですが数年で三億円を超えます。市長答弁も検討の方向でしたが、この際、先輩諸氏にご協力を呼びかけてこの財源を若者の雇用創出や子育て支援に組み替える位の英断が求められると考えます。

市役所問題は「市庁舎

プロジェクト川越21

中原秀久

石川智明

倉嶋美恵子

小林薫

